

令和4年度（2022年度）第1回 熊本市公民館運営審議会 会議録

【開催日時】 令和4年8月30日（火） 14:00～16:00

【開催場所】 熊本市中央公民館 ホール

【出席者】

■ 公民館運営審議会委員

澤田 道夫 委員
藤井 美保 委員
香崎 智郁代 委員
安達 寿夫 委員
穴井 佳典 委員
加藤 貴司 委員
境内 優利 委員
中島 敬治 委員
稲田 憲生 委員
山田 はる美 委員
福島 貴志 委員
高梨 沙織 委員
内野 理恵 委員

以上13人

■ 事務局

市民生活部長 石坂 強
生涯学習課長 大石 雄一

○公民館長（オンライン）

中央区 まちづくりセンター
橋本所長
〃 中央公民館 桑原館長
〃 五福公民館 本田館長
〃 大江公民館 長船館長
東 区 託麻公民館 福田館長
〃 秋津公民館 西川館長
〃 東部公民館 藤川館長
西 区 西部公民館 高取館長
〃 河内公民館 田尻館長
〃 花園公民館 中川館長
南 区 富合公民館 水町館長
〃 飽田公民館 鳥井館長
〃 天明公民館 藤本館長
〃 幸田公民館 池田館長
〃 城南公民館 田中館長
〃 南部公民館 井上館長
北 区 植木公民館 羽矢館長
〃 北部公民館 門田館長
〃 清水公民館 大塚館長
〃 龍田公民館 本巢館長

以上22人

発言者	発言要旨
【開会】	
【文化市民局市民生活部長挨拶】	
【委嘱状交付】	
【委員紹介及び挨拶】	
【委員長及び職務代理者の選出】	
事務局	【議事（１）】令和３年度 事業報告について (公民館利用状況、事業概要等の説明)
事務局	【議事（１）に関する事前質問とその回答】 〔質問〕年齢別割合で小中学生の割合が４割を超えているが、どのような利用があるのか。(穴井委員) 〔回答〕おでかけ公民館事業で各学校に出向いて児童生徒向けに講座を行っているため、１講座あたりの人数が多くなっている。 〔質問〕以前からであるが、２０歳代～５０歳代の働く世代の利用が少ないようだ。利用率を上げるための方策や周知の仕方でいいアイデアはないか。(穴井委員) 〔回答〕民間事業者などとの連携した講座や大学と連携したリカレント教育の実施を検討している。また、１０月からは時間貸・個人貸を開始し、利便性向上に努める。本市 LINE アカウント等を利用した情報発信も行っている。
委員	７、９ページを見ると、令和３年度の１５～１９歳の利用人数がコロナ禍以前よりも大きく伸びている。その理由は何か。
事務局	県内イベントへの県外からの参加者が練習等で公民館を利用されたためである。
委員	以前からこの年代（１５～１９歳）の利用が少なく、この年代の利用を増やしたいということを伺ったことがある。特殊事情はあるにせよ、利用する人はいるということがはっきりした。この世代に訴えるような工夫をすることにより、今後、利用が増えるのではないかという可能性がある。
事務局	リカレント教育をはじめ、大学との連携を活発にしていきたいと考えている。
委員	１５ページの IT 講座の参加者数を見ると、全館合計で 661 人となっている。この数を多いと捉えているのか、少ないと捉えているのか。少ないと捉えているのであれば、周知方法を含め、どのような反省点が出ているか。
事務局	令和２年度～３年度にかけては、休館や各部屋の利用人数の制限等の措置を取ったこともあり、参加者は少なくなっている。今後は、コロナ禍であっても参加者を増やすような方策を講じていきたい。

委員	平成 30 年度や令和元年度の参加者数を見ても、少ないと感じる。努力が足りないのではないかと。公民館同士で意見交換を行い、何をどうすれば参加者が増えるのかを考えてほしい。市民に公民館活動が浸透しているという感じを持っていない。一部の人の利用に留まっており、物足りなさを感じる。私も第 3 セクターでの経験があるが、役所では 3 年毎に職員も入れ替わるため、なかなか浸透していかない。専門家が育たない。その問題を各公民館でどう克服していくか知恵を絞ってほしい。
事務局	毎月、社会教育主事会を行っているので、情報共有し、知恵を出し合いながら参加者増に努めていきたい。 先ほど、15～19 歳代の利用についての話が出たが、高校生が高齢者にスマホの利用の仕方などを教える活動を行っている公民館もある。
委員	LINE には大変な力がある。ロシアのウクライナ侵攻が行われているが、ロシアのフェイクニュースやデマ情報を全くの素人がインターネットや衛星動画等を活用して嘘を暴いている。 すそ野を広げる意味でも IT 講座には是非力を入れてほしい。
委員	乳幼児講座の参加人数には、母親の人数は入っているのか。
事務局	保護者等の人数も入っている。
委員	乳幼児講座の参加者数は比較的多く、歴代続いてきた事業である、30 代、40 代の女性が来られているということを考えると、そこを中心とした発信ができる。その分析を行うことは、次年度からの活性化につながるのではないと思う。
委員	13 ページの子育てサロンについては、どのような講座の参加率が高いのか。その分析を行っているのかを教えてください。オンラインでの実施もいいと思う。身体を使った講座は参加が多いと思うが、分析を行うことで次の計画に結び付く。
事務局	昨年度は、コロナ禍で参加者数は減少している。その中でも、一緒に身体を動かす活動、ベビーマッサージ等のスキンシップを深める活動は人気が高い。詳しい分析は行っていない。
委員	IT 講座については、多様な講座が開催されているが、テーマを決める際にニーズの把握はどのように行っているか。 オンラインでの講座を今後開催していくのであれば、Zoom の使い方などの講座をもっと行っていないと参加者は増えないのではないかと。 ニーズの把握、ターゲットの世代について教えてください。
事務局	Zoom に関する講座等の数はまだ少ない。講座後にアンケートをとったり、社会教育主事会で情報共有したりしながら、比較的人気の高い講座を開催するようにしている。周知不足もあると思う。今後は、新しい技術を含め、ニーズを把握しながら企画をしていきたい。

委員	コロナ禍でいろいろと気を遣いながら公民館運営に携わっておられることをありがたく思う。20 歳代～50 歳代の利用者を増やすことについては事前に質問しているが、この世代の利用が少ないのは、仕事をされているとともに、公民館のことを知らない、暇がない等の理由が考えられる。 公民館を知ってもらう一つ的手段として、子どもの頃から長期的に公民館をアピールすることが大事なのではないかと思う。公民館の社会教育主事は教員経験者が多いので、その強みを生かし、「おでかけ公民館」等で公民館をアピールできる。また、「子どもチャレンジ公民館」等で子どもたちに公民館に足を運んでもらい、公民館の楽しさを体験してもらえると更にいいのではないか。 20 歳代～50 歳代に公民館を利用してもらうためには、今であれば「ソロキャンプ」講座など、どんな講座を企画すれば来ていただけるのかを考えることが大切。 IT 講座の参加人数は妥当な数字だと思う。一人の講師が対応できる人数は限られている。自分の機器を持ち込む場合は、更に個別対応が必要。その中で、多くの講座を開催されており、頑張っておられると思う。
委員長	10 ページの「教養講演会」の参加者数を見ると、城南公民館が突出している。その理由は何か。
事務局	人権文化セミナーについては、以前は年 6 回ほど開催していた。令和 3 年度はコロナの影響で 3 回の開催となった。参加者数は、会場（ホール）に来られた方とオンラインで参加された方を合計したものである。
事務局	【議事（２）】令和４年度（2022 年度）重点事業について （令和４年度（2022 年度）重点事業項目及び具体的取組計画の説明）
事務局	【議事（２）に関する事前質問とその回答】 〔質問〕学習成果を生かすという意味で、ボランティアを育成している館が数館ある。育成した後、ぜひ活動の場を公民館が広げていただければと思う。 〔回答〕22 ページの「（２）学習成果を生かす環境づくり」において、コロナ禍で学習成果を生かす活動が十分できていないが、ボランティアを育成している館が情報を共有し、他の館においても活動できるよう手法等を検討する。 〔質問〕子どもチャレンジ公民館事業でのプランナー育成は、ぜひ進めてほしいが、コロナ禍でもあり、集まるのは難しいと思う。現在、市内の小中学生は一人 1 台タブレットを持っているが、それを活用して会議を行うというのはできないか。 〔回答〕23 ページの「（３）新しい生活様式に適應した事業の展開」において、タブレットを活用したプランナー会議の実施については、教育委員会と協議のうえ、その活用に向けて手法等を検討する。

	〔質問〕各公民館はどの程度までの受講者に対応できる回線が確保できているのか。 〔回答〕今年度中に公民館利用者用の Wi-Fi 環境整備を完了させる予定であり、同時接続可能台数は約 150 台以上を予定している。 〔質問〕各公民館はオンライン講座の実施に必要な通信機器の整備はできているのか。もし十分でないとすれば整備計画はどうなっているのか。また予算措置はできているのか。 〔回答〕今年度、区に 1 台ずつタブレット (iPad) と Zoom のアカウントを 1 つずつ配備する。コロナ禍で本市の財政状況も厳しいが、令和 5 年度以降も、利用状況等を見ながら各公民館に配備できるよう予算要求を行っていく予定。 〔質問〕オンライン講座の実施計画が 19 公民館中わずかに 8 公民館にすぎないということは公民館職員の苦手意識の反映ではないのか。あるいはオンライン講座を実施できる人材がいないか、もしくは不足しているのではないか。公民館職員の情報通信技術に関する人材育成 or 確保は十分なのか。 〔回答〕オンライン講座については、全ての公民館で実施計画を立てているが、今回は紙面のスペースの都合上掲載していない。 今後も各館の社会教育主事間で勉強会を行うなど、事業を拡充していきたい。 〔質問〕全公民館を対象にしたオンライン講座の実施に関する研修は年間何回、どのように行われているのか。 〔回答〕オンライン講座については、全ての公民館で実施計画を立てているが、今回は紙面のスペースの都合上掲載していない。 今後も各館の社会教育主事間で勉強会を行うなど、事業を拡充していきたい。 〔質問〕オンライン講座のテーマの選定や講座実施の周知方法などについて各公民館間での検討会議などは開かれているのか。 〔回答〕前の質問と同じような回答にはなるが、各公民館の社会教育主事で講座に関する研究グループを作り、全公民館に講座のテーマの選定や講座実施の周知方法などについて情報共有して進めている。 〔質問〕仮にオンライン講座の受講者が少なくて、ニーズが低いと捉えているのであれば、各公民館管内の町内公民館を回って、オンライン講座の受講の仕方について末端市民に対する啓もう・周知を行うなど、ニーズの喚起に取り組むことから始める必要があるのではないか。
--	--

	〔回答〕各区やまちづくりセンターにより、町内自治会等に対し、ICT 関連の研修を行っているところもある。公民館で行うオンライン講座等の PR 方法については、ICT 関連の研修を行っているところも参考にしながら、より効果的な手法について今後検討していく。
委員	各館での重点事業取組み事例が大項目（１）～（３）から１講座ずつ紹介されているが、各館で計画しているものについてはすべて情報提供してほしい。 22 ページ（１）②防災意識を持続させるための講座、③人権意識の高揚を図る講演会及び講座は全館でやるべきこと。④地域への理解を深める講座も地域を知るという意味でも全館でやるべき。 開催にあたっては、②であれば消防署、③であれば人権政策課等、各課との連携をとることができる。 （２）（３）についても、どれも取り組むべきものである。
事務局	本年度は、ねらいと活動内容まで紹介するために、各館の取組みについては、（１）～（３）の大項目から１つずつの紹介とさせていただいた。 他の取組みについては、後日メール等にて情報を提供させていただく。
委員	「他の団体との連携」について、妻が県の「子ども劇場」の代表をしているが、家族葬の「ファミリー」と連携し、葬儀で使用しないときには、場所を提供してもらい、子育てサロンや影絵などの活動を行っている。民間の方が他団体への働きかけがうまいように思う。先方も非常に協力的である。「子ども劇場」も公民館が声をかければ、いつでも連携できると思う。任せておけばいいし、託児や見守り保育もできる。 そのためには、社会教育主事の行動力、職員の意識の変革が必要。
事務局	各館社会教育主事も頑張っているところである。以前は、機関車型のリーダーシップが必要であったが、今は、人材を活用したり、ネットワークを広げたりするなどの支援型のリーダーシップが求められる。公民館にはまちづくりセンターも併設されており、地域担当職員とも連携しながら地域の人材活用、ネットワーク構築を進めていきたい。
委員	講座の計画の中で「対象者」の欄があるが、対象を限定しているものがある。例えば、東部公民館の「傾聴ボランティア養成講座」では、「18 歳以上（高校生不可）」となっている。他の講座にも「高校生不可」の記載があり、高校生を排除したような感じも受ける。この世代の利用を増やしたいという中で、どのように考えられているか。
委員	傾聴ボランティアは難しい。責任的な問題があるので、ここではシニア層に向けた講座になってくると思う。
委員長	他にも「高校生不可」という講座がたくさんあるが、その必要性があるのか。高校生を公民館活動にも取り込んでいきたいという思いがある中でどういった判断をされているのか。 各講座の参加者の資格については、各公民館で判断されているのか。

事務局	講座を企画した公民館の判断に任せている。
事務局	「傾聴ボランティア講座」は1月開催予定で、まだ企画段階であり、検討の余地はある。高校生が参加できる講座が少ないという話もあったので、この点についても今後検討していく。
委員長	他にも「人権歌声喫茶」等、わざわざ「高校生不可」にする必要があるのかと思うような講座がある。ご検討いただければ幸いである。
委員	タブレットは各区に1台ということであるならば、是非予算要求をしていただき、各館に1～2台配置できればいいと思う。 22 ページ（1）の中での関係課との連携や自然・文化の活用は非常に大事なことだと思う。本市には博物館や熊本城、水前寺公園、江津湖、立田山などいろいろな場所があるが、例えば立田山や江津湖の四季を感じさせるような講座を開いたり、学芸員の協力を得た博物館ツアーを企画したりするなどして、子どもたちを集めるのもいいと思う。 引率は、社会教育主事だけでは負担が大きいので、近隣の高校や大学に声をかけ、生徒や学生の協力依頼ができないか。来てくれるのではないかなと思う。 （2）については、コロナ禍で難しいとは思いますが、ボランティアの活躍の場を作ってほしい。以前東部公民館に勤務していた際、ボランティア養成を行っていた。一緒にお話する中で、人とつながることができる楽しさを伝えられた。図書室の手伝いや植栽などその方の趣味に合わせた活動を行ったり、高齢者施設での発表会の司会を行っていただいたりした。コロナが落ち着いたら、是非取り組んでほしいと思う。 （3）については、子どもチャレンジ公民館でのタブレット利用についてお願いしたい。数回の会議を経て事業を行うが、定期的にオンラインでの会議を行うことにより効率化が図れると思う。児童はタブレット操作には慣れており、上手に活用できる。
委員	情報発信についてのお願いである。今、公民館を利用されている方の「楽しかった」「よかった」などの声が他の人に伝わるような周知、広報の仕方を工夫してほしい。
委員	各公民館の皆さんの働きのお陰で、令和2年度と比較すると数字が上っている。令和4年度のウイズコロナ時代に感染予防対策を講じながら元々の活動に戻していくかということが今の一番の課題であろう。 ボランティアの話があったが、高校生のボランティアの受入ができていないのが現状である。できる範囲内で交流の機会を設けていただければありがたい。 NPO との連携も掲げてあるが、今年度の終わりにでも意見交換会を行うことができないか。各団体にも得意、不得意があるので、お互いに学ぶ合うことで、スキルアップにつながり、市民にとっていい学習の場が提供できるのではないかなと思う。

委員	令和３年度の事業報告から、コロナ禍で各公民館が苦勞して講座を実施されていることが分かった。 花園公民館では民生委員と連携して子育てサロンを開催している。民生委員は地域の方へお知らせをし、公民館はＨＰで周知を図った。地域の団体との連携は今後も大変重要である。 ICTも重要であり、地域の団体ごとにLINEやZoom等の学習を行っている。公民館から団体に講師を派遣していただくこともある。地域の団体との連携については、花園公民館ではよくやっていた。各地域の実情に応じた連携が必要である。 今年度の重点事業計画については、大項目（１）～（３）から１講座ずつ掲げているが、１つの項目を徹底的に行うのもいいのではないか。その成果を全公民館で共有することで、波及効果を求めていくのも一つの方法であると思う。
委員	１０年ほど前に、清水公民館で母親クラブを立ち上げて、会長をさせていただいた。楽しかったことを思い出した。「楽しい」ということを発信することで多くの方に公民館を利用していただけたと思う。
委員	久しぶりに公民館に来館した。日頃は、市政だより等で公民館事業を拝見している。本日は、資料等から、社会や地域の現状に沿った取り組みについて改めて考えさせられた。以前と変わらず、本市の公設公民館の活動が続いていることも嬉しく思った。
委員	出水小学校で家庭教育学級を行っている。今年で１０年目になる。委員長２年目になるが、これまでは、コロナ禍でなかなか活動ができなかった。公民館が主な学習会場になるが、ここ２～３年はほとんど利用できていない。一度止めたものを復活させることの大変さを感じている。 今年度は、９月から公民館を利用した活動を始めた。これから学習活動の企画をしていくためには、公民館と学校との連携が必要。今後もよろしくお願いしたい。
委員	以前、家庭教育学級を立ち上げた経験がある。会場や講師の配慮をいただくなど、公民館の社会教育主事にはお世話になった。 公民館活動は大事な活動であり、講座に参加した方の感想を届けることで、もっと公民館を利用する人が増えるのではないかという意見は同感である。 子どもチャレンジ公民館に参加した子どもたちの素晴らしい体験が、中学校や高校、また、大人になってからボランティア活動や公民館活動に参加してくれることは素晴らしい宝物である。 （３）③の「新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施について」の講座の紹介がなかった。ニュース等でコロナ関係の情報は流れているが、一人一人が少し深く感染症を学ぶきっかけになればいいと思った。 各公民館が計画されている講座の中で、一番わくわくしたのは、花園公民館で企画されている「オンラインで知る世界の今」である。

委員長	いただいた様々な意見については、事務局で集約をお願いしたい。論点をいくつか挙げさせていただく。 ICT 教育の重要性については、いろいろな御意見をいただいた。引き続き取り組んでいく必要がある。参加者が集まらないのであれば、地域の団体単位で呼び掛けてみるなどの工夫をしていただきたい。 子育て講座に関しても様々な意見をいただいた。募集の際には、参加者の声を全面に出していただきたい。 高校生世代の参加については、参加者が多い活動もあったが、それが何らかのヒントになるのではないかと。ボランティアの受け手がないようだが、積極的に高校生との連携を図るチャンスでもあるのではないかと。 様々な団体との連携、公民館同士の連携の重要性も多数指摘された。各区の公民館で連携を取り合うことも重要であると思う。
【議事終了】	
【閉会】	